

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

【低学年】

- ・平仮名の形を意識して文字を書く時間を定期的に設定し、正しく丁寧に書くことを繰り返し指導したことで、文字を習熟し、形に気を付けて丁寧に書く姿勢も身に付いた。
- ・漢字小テストなど学習した漢字を振り返る機会を頻繁につくることで、児童が確実に新出漢字を覚えられるようにでき、漢字検定にも9割以上の児童が合格した。
- ・毎日音読に取り組むようにしたことで、文章の内容をより正確に読み取る手助けとすることができた。
- ・単元の学習の流れを示したり、1時間の学習の流れを掲示したりすることで、見通しをもって学習できるようになった。また、「じぶんでタイム」や「じっくりタイム」という自己解決の時間を十分に取ったことで、安心感をもって対話的な活動に取り組む様子が見られた。
- ・対話的な活動において、ねらいや目的を明確にしたり交流方法を工夫したりすることで、児童が多様な考えに触れ、自分の考えを明確にすることができた。また、文章を読み取っていく学習活動にも生かせるようになってきた。
- ・児童が「問い」を作って読みを深められるようにしたことが、主体的な対話活動につながった。
- ・図書館司書と連携して教材文に関連した書籍を紹介することで、意欲的に読書に親しむ児童が多くみられた。
- ・常時活動としてスピーチに取り組んだことで、日々の出来事の中から話す内容を見つけることができるようになり、みんなの前で話したり、よく聞いて質問したりすることができるようになった。
- ・「あのねノート」を習慣化することで、書くことへの抵抗が減り、考えたことを積極的に文章に表すことができるようになった。

【中学年】

- ・家庭学習での漢字ノートや定期的な小テストの実施に加えて、文章を書く際は、新出漢字や既習漢字を積極的に用いるよう指導したことで漢字の定着を図ることができた。
- ・文章を書いた後、推敲の時間を設けた。観点を明確にした「書き方名人チェックシート」を使いながら、個人また友達同士で推敲を継続的行ったことで、主語と述語の関係、接続語、指示語を正しく使えるようになってきた。
- ・物語文では、叙述を基に登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像して読む力を伸ばすことができた。
- ・物語文の学習では、自分の考えをもつ→グループ交流→全体交流→振り返りの流れを毎時間行うことで、自分の意見を明確にし、友だちの意見を聞いて考え方を広げ、授業終わりの活動を通して振り返れるようにしたことで、自分の意見がもてるようになった。
- ・物語文の学習では、児童の初発の感想から、単元計画を作ることで、児童がすすんで学習することができた。
- ・交流活動を繰り返し行ったり、話し合い例「話し合いお助けカード」を作成したりしたことで、友達の意見との共通点や相違点に気づき、友達の考えをもっと知りたいと意欲的に活動に取り組む姿が見られた。
- ・「はじめ・中・終わり」の構成を考えて3つ以上の段落で構成した文章、調べたことをまとめた報告分を書くことができるようになってきた。また、自分の考えやそれを支える理由、分かりやすく伝えるために具体例を入れて表現しようと意識して文章を書けるようになった。
- ・書き出しの工夫をすることや自分の考えや気持ちを伝える言葉を選んで文章を書く学習を通して、自分の考えやそれを支える理由、分かりやすく伝えるために具体例を入れて表現しようと意識して文章を書こうとする姿が見られるようになってきた。

- ・家庭学習や授業中で音読活動を積極的に取り入れた。特に、物語文の学習で音読方法を工夫したことで、登場人物の心情変化に気付けるようになった。

【高学年】

- ・文章表現が豊かな作品を紹介しあったり、自作の詩や俳句を教室内に掲示したりして、多くの言葉に触れさせ語彙が増える環境を整えることで、友達のよい表現を活用しようとする姿が見られた。
- ・自分の考えを書かせるときに、立場を明らかにすることで、書くことが苦手な児童も自分の立場を明確にして考えを書くことができた。
- ・物語文や説明文などの読む単元では、「精査・解釈」の学習過程でワークシートや学習資料の工夫をしたことで、自分の考えをもつことにつながった。「共有」の過程では、友達と自由に交流することで豊かな意見に触れることができ、考えを広げたり深めたりすることができた。
- ・説明文を正確に読み取るために、文章構成を把握したり、各段落の関係などを押さえたりする「構造と内容の把握」について重点的に指導したことで、児童が各段落の要点を抑えられるようになった。また、接続詞に気を付けて読むことで各段落の関係をつかめるようになった。
- ・対話的な活動の場面では、タブレットを活用したことで、短時間で効果的に互いの考えを共有することができた。それにより、一人一人の児童が自分自身の思考の深まりを実感することができた。
- ・書くことが苦手な児童も、タブレットを用いることで自分の考えを書く活動に参加することができ、主体的な学びにつながった。今後も個人差を補うために、効果的にタブレットを活用していくことが有効であると考ええる。
- ・文章を書く際には、モデル文を示しながら、構成メモにそれぞれの段落に書く内容を精査させてから文章を書き始めた。それにより、自分の経験したことや自分の考えが明確になり、伝えたいことの中心を捉えて文章にすることができる児童が増えてきた。
- ・ペアやトリオ、グループでの共有の時間では、グループの編成や交流方法などの工夫によって話し合いの目的意識を児童がもてるようになり、意欲の向上につながった。

(2) 課題

【低学年】

- ・拗音や促音の表記の仕方をまだ身に付けられていない児童がいるため、繰り返し指導する必要がある。
- ・ワークシートや言語活動を工夫したことで、より主体的に学習に取り組める児童が出てきたが、それでも難しさを感じている児童もおり、さらに工夫する必要がある。
- ・対話的な活動を進める中で、自分の考えを伝えることが難しい児童もいる。交流の仕方を身に付けられるような指導の工夫が必要だった。
- ・既習の漢字に関するテストの点数は9割を超えることが多いが、文章内で使うことが未だに難しいことが課題である。

【中学年】

- ・読書が好きな子が多いが、読む本に偏りが見られるので、幅広く読書をするためにも、ブックトークや児童同士の本の紹介を取り入れるなど工夫が必要である。
- ・文章を読んだり書いたりする際に、自分の体験や理解した内容と結び付けて自分の考えを形成することができる児童とそうでない児童の差が広がってきている。
- ・教科書や読書、調べ学習等で分からない言葉が出てきた時に、自ら進んで国語辞典を用いて調べ、語彙を獲得させるようにしたい。
- ・改行や段落、句読点など、作文の形式について定着していない児童が多数いるので、個別的に声をかけるだけではなく、原稿用紙の正しい使い方等、引き続き全体指導をしていく必要がある。
- ・漢字の読み書きには定着の二極化が見られるので、苦手な児童への丁寧な指導を続けていく。

- ・対話的な活動を通して友達の考えを知り、自分の考えの広がりや深まりに活かせるように、今後とも交流のねらいや目的、様々な交流方法を取り入れたり、話し合いの仕掛けを作ったりしていくことが必要である。

【高学年】

- ・読書をする機会が少ないのと、児童によっては、読書の幅が広がらないことが課題である。関連図書を各単元の事前・事後に読む、本のジャンルを指定して読書をするなど読書を習慣化するために指導計画の見直しや、すきまの時間を読書の時間にあてるなどの工夫が必要である。
- ・文章をどう書いていいのか分からなかったり書いたことに自信がもてなかったりする児童が多い。モデル文を提示したり、構成メモの作成を個別支援したりすることに加え、友達同士でアドバイスする時間を確保し、書くことに対する不安感を解消していく必要がある。
- ・物語文や説明文の内容を読み取ることに苦手意識をもっている児童がいる。音読や既習事項の確認を授業の中に取り入れ、構造や内容の把握ができるよう指導の工夫をしていくことで、精査・解釈に主体的に取り組むことができるよう、単元展開や授業展開の工夫をする必要がある。
- ・児童の考えを広げたり深めたりし、思考を深めていくために、対話的な活動の中で児童同士が、「友達の考えを聞いてみたい」と対話をしたくなるような発問を吟味し、活動場面を設定していくようにする。
- ・語彙を高めるために意味調べや新聞の活用に取り組んだが、まだまだ個人差がある。同音異義語で例文を書かせたり、漢字そのものの意味を押さえたりしながら漢字学習に繰り返し取り組ませたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

※ ◎…目標値を上回った。

○…目標値と同程度。

△…目標値を下回った。

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	◎		
第5学年	◎	◎ (第4学年時)	
第6学年	◎	◎ (第5学年時)	◎ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・一項目をのぞき、おおむね目標値、区平均、全国平均と同じくらいか、上回っている。 ・言葉の特徴や使い方に関する事項の「漢字を書く」項目で9ポイント目標値を下	・全体として目標値、区平均、全国平均を上回っている。 ・読むこと領域の「説明文の内容を読み取る」項目においては目標値を上回った。 ・読むこと領域の「物語の内	・全体として目標値、区平均、全国平均を上回っている。主体的に学習に取り組む態度は概ね定着している。

回ったものがあった。	容を読み取る」項目の「登場人物の性格について具体的に想像している」では、目標値を15ポイント上回った。 ・書くこと領域の、自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書く」においては、目標値を17ポイント上回っている。	
-------------------	---	--

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・一項目をのぞき、おおむね目標値、区平均、全国平均を上回っている。 ・言葉の特徴や使い方に関する事項「漢字を読む」「漢字を書く」においては、目標値を上回っている。 ・言葉の特徴や使い方に関する事項の「連体修飾語（5年）」で7ポイント目標値を下回った。	・三項目をのぞき、おおむね目標値、区平均、全国平均を上回っている。 ・書くこと領域の「自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書く」「二段落構成で文章を書く」においては、目標値より大きく上回っている。 ・読むこと領域の「説明文の内容を読み取る」項目の「叙述を基に段落相互の関係を捉えている」（5年）では、目標値を下回った。 ・読むこと領域の「物語の内容を読み取る」項目の「登場人物の心情について描写を基に捉えている」（6年）では、目標値を下回った。 ・話すこと・聞くこと領域の「話し手の目的に応じて話の内容を捉えている」（6年）では、目標値を下回った。	・全体として目標値、区平均、全国平均を上回っている。全体的に学習に取り組む態度は概ね定着している。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・平仮名を書く際に、ポイントを一緒に確認したり、間違い探しなどをしたりして、字形を意識できるようにする。（指導計画） ・特殊音節の定着を図るために、文中で繰り返し使ったり、間違い探しをして表記方法を意識させたり、MIMを活用して練習したりする。（指導計画・授業構成） ・文章のまとまりを意識しての段落作り、鍵括弧の使い方や行の変え方を身に付けられるよう、「書くってたのしいね」を活用したり、文章を書かせるたびに繰り返し確認をしたりする。（指導計画・授業構成） ・漢字小テストを行い、学習した漢字の定着を図る。（授業構成） ・文の中で漢字を使うことや、促音、拗音、長音の書き表し方を確実に習得するために、視写や聴写に取り組ませたり、書いた文章を推敲させたりし、表記方法を意識させる。（指導計画・授業構成） ・タブレットのまなびポケットを活用し、ベーシックドリルで文字の書き表し方の習熟を図る。（指導計画）	・自分の考えを友達に伝えられるようになるために、発表の仕方や話し方の例を示したり、スピーチを取り入れたりする。（授業構成） ・あのねノートを使った日記の指導を継続し、書くことに親しめるようにするとともに、題材のヒントを定期的に示すことで、生活の中から話題を見つけられるようにする。（指導計画） ・授業の中での交流活動が考えの形成につながるよう、対話の目的ややり方をはっきりさせてから取り組ませるようにする。（指導計画・授業構成） ・ペアやグループでの共有の時間では、自分の考えをもち伝えたり、友達の考えを聞いたりできるようにする。（授業構成）	・児童に親しみのある題材を設定したり、「やりたい」と思えるように発問をしたりすることで、学習に対する意欲を高める。（指導計画・授業構成） ・単元の学習計画や一単位時間の流れ、その時間のめあてを児童にも示し掲示することで、見通しをもって学習できるようにする。（指導計画） ・単元や授業の終末に振り返りの時間を設け、児童自身がその時間に何を学び、どんな力が高まったのか、次に何を学ぶのか振り返り、次の学習に向けて意欲を高められるようにする。（授業構成） ・ノートの取り方やワークシートのまとめ方を工夫し、学習の積み重ねや既習事項を振り返ることができるようにする。（学習計画・授業構成） ・読書に親しみ、意欲を高める読書学習司書と連携して、教材文に関する本を紹介する。（指導計画）

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字を定着させるために、授業中に新出漢字の確認を行い、毎日宿題でも取り組む。また小テストに定期的に取り組み、タブレットを使った学習を通じて反復練習をしていく。加えて、授業の中で新出漢字を使った熟語を教える。（指導計画・授業構成） ・授業で作文の書き方の指導を行う。また、「書くって楽しいね」を活用し、正しい文法を押さえる。一週間に一回日記の宿題を出し、考えたことを文で表現する機会を増やす。（指導計画・授業構成） ・文章を書く際は、主語と述語の関係、接続語、指示語を正しく使えるようにしていく。（指導計画、授業構成） ・書き方チェックシートや「書くってたのしいね」を活用し、段落、句読点、引用、会話文の書き方など、原稿用紙の正しい使い方を身に付けさせる。（授業構成） ・ペアやグループ、トリオで話し合いの機会を作り、自分の考えを言葉で表現したり、相手の考えを新たに取り入れたり、自分の考えと比べたりできるように意識づけを行う。（指導計画・授業構成）	・説明文では、文章の大事なところに線を引き、全体で確認しながら読み進めることで、内容理解をはかる。また、段落ごとの内容を表にまとめたり、図で表したりすることで、相互の関係をとらえやすく、はじめ・中・終わりの構造や、問いと答えの関係に着目させるとともに、作者の意見を読み取り考えていく。（指導計画） ・物語文では、文章の叙述に立ち返りながら、登場人物の気持ちを考える活動を毎時間取り入れる。登場人物の変化や性格、情景について、場面の移り変わりとも結びつけて想像する。（指導計画） ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の体験と結び付けながら自分の考えを形成することができるように、理由と共に要旨に対する立場を明確にさせる。（授業構成） ・話す聞く活動では、話し手の伝えたいことや、自分の聞きたいことが明確になるように、話型を提示する。友達の意見との共通点や相違点を比較することで、自分の意見を深められるようにする。（指導計画） ・ペアやトリオ、グループでの共有の時間では、何を伝え合うかの観点を明確化して行う。話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心をとらえ、自分の考	・積極的に辞書を活用し、初めて学んだ漢字や、分からない言葉などを引くことで、興味をもって学習に取り組めるようにする。 ・単元のはじめには、児童と共に単元計画を設定し、それを掲示することで、学習の見通しをもち、興味をもって主体的に活動できるようにする。 ・どの児童も主体的に学習に取り組めるよう、ワークシートや言語活動を工夫する。（指導計画・授業構成） ・授業の最後に、学習を振り返る時間を設け、何を学びどんな力が身に付いたのか、身に付いた力を今後の学習や生活にどのように生かすか表現できるようにしていく。（学習習慣、指導計画） ・読書に親しみ、意欲を高める読書学習司書と連携して、教材文に関する本を紹介する。（指導計画）

	えをもてるようにする。 (指導計画)	
--	-----------------------	--

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・新出漢字を定着させるために、家庭学習での漢字ノートや定期的な小テストを実施していく。(指導計画) ・語彙を増やすために、日常的に国語辞典や言葉の宝箱、新聞等を活用する。分からない言葉は辞書を使って調べさせ学級全体で共有し、語彙力を高めていく。(授業構成) ・「書くってたのしいね」を活用し、連用修飾語などの文の構成、原稿用紙の使い方などを身に付けさせる。(授業構成) ・修飾語や指示する語が指している語句や役割などを確認する活動を、精査、解釈の学習の中で繰り返し指導することで、言葉を正しく使えるようにする。(指導計画・授業構成)	・説明文を正確に読み取るために、文章構成を把握したり、各段落の関係などを押さえたりする「構造と内容の把握」について重点的に指導していく。(指導計画) ・内容の中心となる語や文を見付けられるように、キーワードやキーセンテンス、文章構成に注目させ、ワークシート等の活用やノート指導を充実させて要約ができるようにさせる。(授業構成) ・物語文では、叙述を基に登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像して読む力を伸ばしていく学習活動を継続して行う。(指導計画、授業構成) ・ワークシートや発問を工夫することで、物語文や説明的文章を読んで考えたことや感じたことを書き表すことができるようにする。(授業構成) ・ペアやトリオ、グループでの共有の時間では、何を伝え合うかの観点を明確化して行い、目的に応じて話の	・単元の始めに一人一人がもった感想を基に学習問題を立てることで、主体的に課題に取り組むことができるようにする。(授業計画) ・見通しをもって学習に取り組めるように、単元の進め方や毎時間の学習の流れを掲示していく。また、既習の学習を活用したりつなげたりして課題に取り組めるよう指導計画を立てる。(授業計画・授業構成) ・ペアやトリオ、グループでの共有の時間では、話したいという意欲を高め、自分の考えを明確にもてるような発問、学習課題の工夫をする。(指導計画) ・読書の幅を広げ、関心を引き、意欲を高めるために、読書学習司書が教材文に関する本を紹介する。(授業計画・授業構成)

	内容を捉え、自分の考えをもてるようにする。（指導計画）	
--	-----------------------------	--

4 今年度の授業改善プランの成果と課題

(1) 成果

【低学年】

- ・平仮名を書く際に、ポイントを一緒に確認したり、間違い探しなどをしたりして、字形を意識できるようにしたことで、正しい文字を習得することができた。
- ・漢字小テストを定期的実施し、タブレットのまなびポケットを活用してドリルパークで書き表し方の習熟を図ったことで、漢字を習得することができ、漢字検定にも9割以上の児童が合格した。
- ・あのねノートを使った日記の指導を継続して行うことで、したことや思ったことなどを表現することに慣れてきた。
- ・親しみのある題材を設定し発問の工夫をしたことで、学習に対する意欲を高めることができた。また、単元の学習計画や一単位時間のめあて、学習の流れを児童にも示すことで、見通しをもって主体的に学習する姿が見られた。
- ・単元の始めに一人一人がもった感想を基に学習問題を立てることで、主体的に課題に取り組むことができた。
- ・自分の考えを友達に伝えられるようになるために、発表の仕方や話し方の例を示したり、スピーチを日常的に取り入れたりすることで、自分の考えを分かりやすく伝えることができるようになった。
- ・自分の考えをもってからペアやグループでの共有の時間を設定したことで、主体的に自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたりすることができた。
- ・読書学習司書と連携して教材文に関する本を紹介したことで、学習内容の理解をより深めることができた。

【中学年】

- ・家庭学習での漢字ノートや定期的な小テストの実施に加えて、文章を書く際は、新出漢字や既習漢字を積極的に用いるよう指導したことで漢字の定着を図ることができた。
- ・分からない言葉があるとは辞書を活用し、すすんで調べる児童が増えた。
- ・物語文では、叙述を基に登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像して読む力を伸ばすことができた。
- ・物語文の学習では、自分の考えをもつ→グループ交流→全体交流→振り返りの流れを毎時間行うことで、自分の意見を明確にし、友だちの意見を聞いて考え方を広げ、授業終わりの活動を通して振り返れるようにしたことで、自分の意見がもてるようになった。
- ・物語文の学習では、児童の初発の感想から、単元計画を作ることで、児童がすすんで学習することができた。
- ・交流では、自分の考えをもつ時間をとってから、ペアやトリオ、グループで話し合い、全体で共有した。自分の考えをもって伝えられる児童が増えた。
- ・交流活動を繰り返し行ったり、話型を指導したりすることで、友達の意見との共通点や相違点に気づき、友達の考えをもっと知りたいと意欲的に活動に取り組む姿が見られた。

- ・「はじめ・中・終わり」の構成を考えて3つ以上の段落で構成した文章、調べたことをまとめた報告分を書くことができるようになってきた。また、自分の考えやそれを支える理由、分かりやすく伝えるために具体例を入れて表現しようと意識して文章を書けるようになった。
- ・書き出しの工夫をすることや自分の考えや気持ちを伝える言葉を選んで文章を書く学習を通して、自分の考えやそれを支える理由、分かりやすく伝えるために具体例を入れて表現しようと意識して文章を書こうとする姿が見られるようになってきた。
- ・家庭学習や授業中で音読活動を積極的に取り入れた。特に、物語文の学習で音読方法を工夫したことで、登場人物の心情変化に気付けるようになった。

【高学年】

- ・単元の始めに一人一人がもった感想を基に学習問題を立てることで、主体的に課題に取り組むことができた。また、内容を理解した上で再度問いをたてて考えることで理解の深まりがみられた。
- ・話型を使わずに内容について児童一人一人が意見をもち、対話することができるようになった。
- ・書くことが苦手な児童も、タブレットを用いることで自分の考えを書く活動に参加しやすくなっていた。

(2) 課題

【低学年】

- ・拗音や促音の表記の仕方が身に付いていない児童が見られるので、繰り返し指導する必要がある。
- ・文字の形に気を付けて学習すると丁寧な正しい文字を書くことができるが、普段から丁寧な文字を書けるようにするためには、日ごろから正しく書くことを意識できるような指導の工夫が必要である。
- ・話し合いの時に、自分の意見を言えるようになってきたが、相手の意見を受けて、そこから話をつなげたり広げたりすることに課題がある。

【中学年】

- ・読書が好きな児童が多いが、読む本に偏りが見られるので、幅広く読書をするためにも、ブックトークや児童同士の本の紹介を取り入れるなど工夫が必要である。
- ・文章を読んだり書いたりする際に、自分の体験や理解した内容と結び付けて自分の考えを形成することができる児童とそうでない児童の差が広がってきている。
- ・教科書や読書、調べ学習等で分からない言葉が出てきた時に、自ら進んで国語辞典を用いて調べ、語彙を獲得させるようにしたい。
- ・改行や段落、句読点など、作文の形式について定着していない児童が多数いるので、個別的に声をかけるだけでなく、原稿用紙の正しい使い方等、引き続き全体指導をしていく必要がある。
- ・対話的な活動を通して友達の考えを知り、自分の考えの広がりや深まりに活かせるように、今後も交流のねらいや目的、様々な交流方法を取り入れたり、話し合いの仕掛けを作ったりしていくことが必要である。
- ・交流では、自分の考えを伝えられる児童が増えた一方で、対話として成立するかどうかには課題が残った。伝えて終わりにするのではなく、質問をしたり、「自分も同じで」と賛同したりするなど、反応が必要である。話型を示したり、交流の機会を多く取り入れたりすることで、対話を目指していきたい。

【高学年】

- ・ペア、トリオ、グループなどで活動することの必然性を児童に感じさせてから活動に取り組ませることで、より活動が有意義なものになる。
- ・自分の意見を表現することに苦手意識をもっている児童が多いため、表現の方法（語彙を増やす、朗読するなど）を増やしていく必要がある。